

a 学校教育目標	心豊かに かしこく たくましく	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命) 志を抱き、自らその実現に向けて考え、行動できる未来の創り手の育成 【ビジョン】(自校の将来像) 組織の一員としての自覚をもち、新たな教育活動の創造に向け、協働できる教職員が創る学校
----------	-----------------	----------------------	--

評価計画				自己評価					改善方針	学校関係者評価				
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方針	l 評価			m コメント
					h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ	
確かな学力	主体的で探究的に学ぶ児童を育成する。	基礎・基本の学力の定着と思考力・判断力・表現力の育成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善 ・基礎・基本の学力の定着 ・帯タイムや家庭学習による繰り返し学習の徹底 ・漢字検定・計算検定テスト(学期毎)の取組 	<ul style="list-style-type: none"> ・学力調査NTRで目標値の達成 ・算数科の単元テスト 知識・技能 平均到達率70%未満 ・思考・判断・表現 平均到達率70%未満 (再テストも含む) ・漢字検定・計算検定テスト合格 90点以上(再テストも含む) ・まとめ・振り返り場面で自分の考えを書いたり、学習の様子を評価したりできる児童の割合【R80】 ・児童アンケートの肯定的評価 	前年度平均以上 0人 90% 100% 80%以上	全体 50.9 知・技 1人 思・判・表 0人 100% 88% 87%	96% 98% 100% 111% 88% 109%	B B A B A	<ul style="list-style-type: none"> ・NRTの結果、全体としては前年度を2.3ポイント下がっている。算数科は5・6年が前年度の結果を上回っている。 ・単元テストの結果、知識・技能の到達率が70%未満だった児童は全体で1人であり、前年同期から1人減っている。また、思考・判断・表現の到達率が70%未満だった児童は全体で9人であったが、再テストを繰り返すことで、全員が到達率70%以上になっている。 ・漢字計算検定は、再テストも含めて全員が正答率90%以上になっている。 ・R80を活用したまとめ・振り返りをしている児童は、全体の88%である。 ・全体では、指標となる4つの項目すべてにおいて到達目標を達成している。特に、「授業では、問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いています。」では、「あてはまらない」と答えた児童が0人になり、「自分の考えを説明するとき、式や図や表を使って表したり、ブロックを動かしたりしながら説明しようとしていた。」では、4月から7ポイント上昇している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童中心の授業展開、意図的な説明場面の充実、「分からない」ということができる雰囲気づくりの奨励、ノート指導・廊下掲示、予習の取組を研修を通して全教職員で進めていく。 ・全学級で、帯タイムを活用した校内漢字・計算検定に向けての反復練習及び検定の実施を引き続き行う。 ・全学級で、毎週木曜日の帯タイムに、「100マス作文」の実施をする。 ・全学級で、アシストシートを活用したドリル学習を実施する。 ・あらすじやキーワードの把握・語彙力増加をねらう読書活動を推進する。 ・振り返りの場面ではR80を活用し、「分かったこと」だけでなく、「分からなかったこと」も書けるように指導することで、学習成果を自己評価できる力をつけていく。また、意見や感想等視点を与えることで、思考を広げたり深めたりできる「R80」の活用を考えていく。 	○		<ul style="list-style-type: none"> ○漢字検定計算検定の取組がよい。基礎学力の定着には、継続した粘り強い取組が必要である。先生方から丁寧に児童に関わっている様子が伺える。 ○全学年、全学級同じ方向性で取り組んでいる様子が伺える。複式学級のよさを活かし、児童は主体性をもって学習している。児童の中でリーダーが育っている。 ●自己選択・自己決定の場の設定について、選択肢のそれぞれの、メリット・デメリットも含めて提示したり、児童に考えさせたりするとよりよくなる。社会に出たときのより効率的でよりよい成果を上げるという場面で必要な力がついていくと考える。 	
豊かな心・健やかな体	心も体もたくましい児童を育成する。	認め合い支え合い、自ら伸びる、ともに伸びる児童を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・自己肯定感の割合「前と比べて良くなったと感じている児童の割合」 ・児童アンケートの肯定的評価「体と動かすのが好きと答えた児童の割合」等 	80% 80%	92% 86%	115% 107%	A A	<ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケートの結果、「前の自分と比べて良くなったことやできるようになったことがある」と自覚する自己肯定感の割合は92%であった。 ・「自分から進んであいさつをしている児童」は96%、「成長の木に良くなったことやできるようになったことを書いている児童」は88%であり、日々の取り組みが自己肯定感を高めていることが伺えた。保護者アンケートの結果でも、「わが子は、自分の良いところを知っている」の肯定的評価は90%であり、目標を上回ることができた。 ・児童アンケートの結果、「体を動かすのが好き」と答えた児童の割合から肯定的な結果が88%であり、目標値と比較をすると+8%であった。 ・新体カテストでは、昨年度の重点目標であった「上体起こし」「50m走」は、男子は改善が見られなかったが、女子は県平均、全国平均値よりも高くなり、改善がみられた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の自己肯定感が高い。校内掲示等でも自己の成長が分かるようになっているので、引き続き実施していく。 ・「成長の木」の取組は、自己の成長や友達の成長を認め合える集団作りにつながっている。わくわくタイムを行って良好な人間関係づくりに取り組んでいく。 ・体を動かすのが好きな児童の割合も高い。体育委員を中心に外遊びの奨励を行い、児童会を中心にわくわくタイムを実施し、楽しく運動する機会を増やす。 ・体育の時間の初めにサーキット運動、柔軟運動を取り入れる。 	○		<ul style="list-style-type: none"> ○児童の自己肯定感が高いのは素晴らしい結果である。授業中も含めた学校教育すべての場で一人一人を認め合う温かい雰囲気づくりがされている。 ○各教室、学校全体が大変よく整理整頓され、掲示物も学びの足跡や児童の頑張りが分かるよう工夫されていた。環境づくりにおいても心豊かになるものであった。 ○児童会・委員会を活用し、楽しく運動する機会を設けるようなものを、児童同士で計画・運営しているので、そのような取組を継続してほしい。 		
信頼される学校	学校と保護者・地域及び関係機関との双方向の信頼関係を構築する。	地域に開かれた信頼される学校の構築を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 働き方改革の推進 校務支援システム等、ICT機器を活用し、 ・スケジュール管理の徹底を図る。 ・各部、各委員会の組織的な取組を進める。 ・PDCAサイクルを充実させる。 積極的な地域教材や人材の活用 ・学校行事や教科等で地域人材や地域教材を活用した活動や学習を進める。 積極的な情報発信 ・ICT機器を活用して、学校だより、HP、学級だより等で積極的に学校や学級の様子を発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定時退校日の完全実施。 ・年間を通して勤務時間外の上限時間を超えない。(月45時間以内、年間360時間以内) ・保護者の学校理解の肯定的評価割合。保護者アンケート (7月・12月) 	100% 100% 90%以上	定時退校 100% 時間外上限を超えていない 100% 地域学習 86.3% 情報発信 96.1%	100% 95.9% 106.8%	A B	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週水曜日を定時退校日と設定し、17時までの退校を実践している。また、計画的に授業時間数を調節し、業務に専念できるようにした。これらにより、定時退校日を100%実施できた。 ・職員の各月の時間外勤務の上限45時間を超える職員は0人であった。4月は多い職員で25時間、5月は28時間、6月は31時間、7月は23時間以内であった。 ・保護者アンケート「わが子は地域のことを学習したり、地域の方と一緒に活動したりするのを楽しんでいる」の肯定的評価が86.3%であった。地域学習について1学期の予定がなかった学年があったので、引き続き様々な場面で計画的に実施していく必要がある。 ・ICT機器を活用した情報発信や、すぐるによる学級だより・学校だよりの配信を定期的に行っている。保護者アンケート「学校だより、学級だより、すぐる等で学校・学級の様子が伝わった」の肯定的評価は96.1%であり、目標値を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・水曜日の定時退校が習慣化しているため、引き続き取り組んでいく。ハード面の取組として、年間事業時数1086時間に近づけるよう、計画的に授業時数をカットし、業務時間の確保を行っていく。併行して、焦点を絞った授業改善に取り組んでいく。ソフト面の取組では、優先順位を考えながら業務ができるよう職員同士で声掛けをしたり、業務の偏りがないようにしたりするなど、調整を行っていく。 ・準衛生委員会等で職員の意見を出し合い、周知、徹底するなど業務改善を進めていく。 ・計画的にそれぞれの学年の発達段階にあった地域学習を実施していく。地域とのつながりのある学習の際には、すぐるや学校だより等で適宜情報を発信していく。 ・毎月行っているちんこんかんの練習について、児童に価値づけを学習させたり、保護者にも周知したりしていく必要がある。 ・学級だよりについて偏りのないよう、回数や内容について職員で交流し、子どもたちの様子を積極的に発信していく。 	○		<ul style="list-style-type: none"> ○地域のことを好きな児童を育ててほしい。地域の教材を活用した学習を長年されており、沼田小学校の伝統になっている。引き続き取り組んでいただきたい。地域の事が好きで誇りに思う児童を育成していただきたい。 ○ICT機器の活用により、歴代の沼田小ちんこんかんの動画を使った学習ができています。上の学年から下の学年への継承と、動画も合わせた継承がより効果的である。 	

【j: 自己評価 評価】

A: 100≦(目標達成) B: 80≦(ほぼ達成)<100
C: 60≦(もう少し)<80 D: (できていない)<60

【l: 学校関係者評価 評価】

イ: 自己評価は適正である。 ロ: 自己評価は適正でない。
ハ: 分からない。